

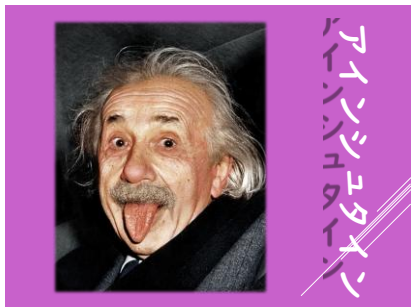


2026

学校だより **本荘** Smile

令和7年度 第50号
令和8年3月13日
熊本市立本荘小学校
校長 西川 英臣

2月の学校朝会は「天才とは？」でした。アインシュタイン博士の言葉です！



「天才」という言葉は、かつて学校現場でもよく使われていました。当時の小学生にとって、それは勉強ができることへの「憧れ」の言葉だったように思います（「オール5」という言葉もそうでしたね）。

もちろん、昔を懐かしんでばかりはいられません。今の学校生活を見ていると、勉強が苦手な子や、つらいと感じている子もいます。価値観が多様化した現代、テストの点数だけがすべてではありません。それでも、こどもたちにとって「100点を取りたい」という気持ちは自然なものですし、一生懸命に頑張りたいと願っている校長先生です。

なぜなら、誰にでも勉強が上手になるチャンスがあり、よい成績をとる可能性を秘めているからです。

中には「自分は天才じゃないから無理だよ」と

思う人もいられるかもしれません。では、一体どんな人が「天才」なのでしょう。今回の学校朝会では、このことについてお話ししました。

有名な科学者にアインシュタインという人がいます。「宇宙のルール」を書き換えた、すごい人です。彼は、それまで誰もが当たり前だと思っていた時間の流れや空間の仕組みについて、「相対性理論」という大発見をしました。簡単に言うと「猛スピードで動くロケットの中では、地球にいる時よりも時間がゆっくり進む」というような、まるで魔法のような話を、彼は科学の力で証明したのです。そのアインシュタインは、こんな言葉を残しています。「天才とは、努力する凡才（ふつうの人）のことである」天才とは決して特別な存在ではなく、努力を積み重ねた人のことだと彼は言いたかったのでしょう。

（裏面に続きます）

今、自分を天才だと思っていることもはいないかもしれません。しかし、努力を忘れなければ、いつか誰かから「天才」と呼ばれる日が来るかもしれないのです。

そんなアインシュタインも、小さい頃は「おとなしくて少し変わった子」だったそうです。世界一の天才といわれる彼ですが、実は話すことが苦手で、5歳くらいまでほとんど言葉を発さなかったといわれています。学校も苦手でした。決

められたルールに従うことよりも、一人でじっくりと「どうしてだろう?」と考えることが大好きだったのです。

本荘小の子どもたちも同じです。「なぜ?」という問いを持ち、自分の頭で考え抜くことこそが、勉強ができるようになるための一番の近道です。アインシュタインのような探究心を持って、ぜひ色々なことに挑戦してほしいと願っています。(校長) ※写真は学校朝会の様子です。

